

<b>(技術名) ナミハタ産卵保護区の有効な期間設定</b>							
(要約) 八重山海域のナミハタについて産卵期間中の漁場を聞き取り調査したところ、禁漁直前にヨナラ水道で漁獲された魚の割合が高く、他の産卵場での漁獲量は少なかった。そのため、ナミハタ産卵群保護策の改善には、ヨナラ水道での禁漁期間を前倒しして延長する方法が、新たな保護区を増設するよりも効果的であることが明らかになった。							
水産海洋技術センター石垣支所					連絡先	0980-88-2255	
部会名	水産業	専門	資源管理	対象	ナミハタ	分類	普及
普及対象地域	八重山海域						

#### [背景・ねらい]

八重山漁協電灯潜り研究会では、重要な漁獲対象種であるナミハタの資源回復のため、主要な産卵場であるヨナラ水道を保護区に設定し、産卵期の漁獲量を削減する自主規制に取り組んでいる。当初、禁漁期間は、旧暦3月または4月23日を含む前後2日間として始まったが、禁漁直前および禁漁期間中にも相当量の親魚が水揚げされ続けたため、段階的な期間延長が図られてきた。しかし、依然として産卵期の漁獲量を抑えきれないため、新たな保護区を増設や禁漁期間の見直し等、保護効果を高める改善策が求められた。

そこで、適切な管理手法を選択するうえで、産卵群の漁場情報が必要となるため、産卵期のナミハタ漁場の聞き取りを漁協及び鮮魚流通業者に依頼した。

#### [成果の内容・特徴]

1. 平成27年4月24日から6月12日までの漁獲量の約44% (748 kg) の漁場を特定することができた。最も多かったのはヨナラ水道で320 kg (43%) であった(表1)。その約95% (307kg) が禁漁期間直前に集中した。
2. ヨナラ水道以外に主に4つの産卵場と推定される海域からの禁漁期間中における漁獲量は、合計で414kgであり、それらはヨナラ水道が禁漁となっている期間(5月1~15日、5月30日~6月13日; 398kg) に集中していた。
3. ヨナラ水道での禁漁直前6日間の漁獲量307kgに対し、禁漁期間30日間中の他の主要4漁場(A~D)での総漁獲量は397kg(40~199kg)であった。
4. 以上の結果から、保護区の効果を高めるためには、ヨナラ水道とは別の新たな海域に保護区を増設する方法よりも、ヨナラ水道での禁漁期間を5日間前倒しして延長する改善策が効果的であり、漁業者の同意が得やすいと考えられた。

#### [成果の活用面・留意点]

1. 本成果をもとに平成28年は保護期間を5日間延長し、20日間×2回としたところ、特に禁漁期間前の漁獲が大幅に減少したことから、効果が高かったと判断される(図1)。
2. 平成28年は、本調査において未確認の産卵場から産卵群(約100kg)が水揚げされており、産卵群の保護効果を高めるためには、継続した漁場、産卵場の把握など情報収集が必要である。
3. ヨナラ水道の禁漁期間を延長することで、他の産卵場では漁獲圧が高まっていると考えられるため、各産卵場での漁獲量の継続的なモニタリングが必要である。

[具体的データ]

表 1. 平成 27 年度のナミハタ産卵期間中に聞き取った漁場別漁獲量

水揚げ年月日	ヨナラ水道	漁場A	漁場B	漁場C	漁場D	漁場E	漁場F	総計
2015/4/24	91.8							91.8
2015/4/25	57.2							57.2
2015/4/27	104.0			6.0				110.0
2015/4/28	32.0							32.0
2015/4/29			10.0					10.0
2015/4/30	21.5							21.5
2015/5/1							5.0	5.0
2015/5/6		30.0						30.0
2015/5/8			20.0					20.0
2015/5/9		25.0				10.0		35.0
2015/5/10		12.0	30.6					42.6
2015/5/13		45.0	23.0					68.0
2015/5/14	※13.0	45.0	30.0			40.0		115.0
2015/5/15		42.0		5.0				47.0
② 2015/6/12				50.0				50.0
総計	319.5	199.0	113.6	61.0	40.0	10.0	5.0	735.1
割合	0.43	0.27	0.15	0.08	0.05	0.01	0.01	

※ ヨナラ水道周辺の禁漁区域外で漁獲されたと考えられる

平成27年の禁漁期間は5月1日～5月15日と、5月30日～6月13日の15日間×2回

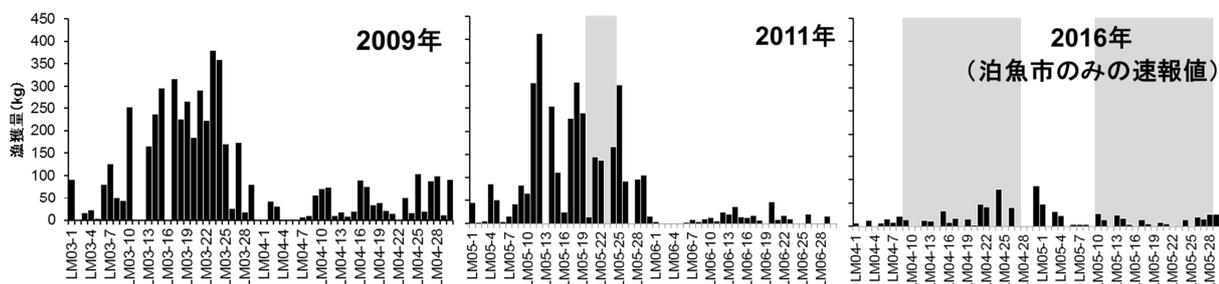


図 1. 禁漁前（2009 年），禁漁初期（2011 年），成果を踏まえて改良された禁漁期間（2016 年）の産卵期間におけるナミハタの日別水揚げ量。（2016 年は漁獲統計集計の都合上、泊魚市のみの水揚げ量で集計）

[その他]

課 題 I D : 2011 水 002

研究課題名：八重山海域の魚類資源（イソフエフキ等）管理技術の確立

予算区分：県単（水産海洋研究費）

研究期間：平成 23 年度～平成 27 年度

研究担当者：秋田雄一

発表論文等：沖縄県水産海洋技術センター事業報告書、平成 28 年度（予定）